めぐみイエス・キリスト教会

2025年11月30日（日）第五主日礼拝
午前10時より
週報「通算第785号」

2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れない。》

第一礼拝（教会にて）　毎週日曜日　午前10時～11時
聖書の学びと祈り会　毎週水曜日　午後6時～（各家庭にて）

牧師　鈴　木　竜　実
　　ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、統一教会（原理福音）とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】
【賛　美　Ⅰ】新聖歌378「罪の世人らに」　p. 608
【交　読　文】№60　ヨハネの黙示録第21章　p. 928
【賛　美　Ⅱ】新聖歌451「カルバリ山より」　p. 726
【使徒信条】
【主の祈り】
【前回説教】
【賛　美　Ⅲ】オリジナル曲「アバ父よ」
【聖書朗読】ルカの福音書11章42節～44節(p. 139下段)
【礼拝説教】《偽善者とならない為に》
【聖　餐　式】
【賛　美　Ⅳ】新聖歌165「栄光イエスにあれ」　p. 235
【平和祈り】
【頌　　栄】新聖歌63「父・御子・御霊の」　p. 85
【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所ルカの福音書11章42節～44節

11:42「だが、わざわいだ、パリサイ人。おまえたちはミント、うん香、あらゆる野菜の十分の一を納めているが、正義と神への愛をおろそかにしている。十分の一もおろそかにしてはいけないが、これこそしなければならないことだ。
11:43　わざわいだ、パリサイ人。おまえたちは会堂の上席や、広場であいさつされることが好きだ。
11:44　わざわいだ。おまえたちは人目につかない墓のようで、人々は、その上を歩いても気がつかない。」

●ポイント1.「十分の一」とは？

※レビ記27章30節「律法による最初の記述」　　（旧約p.231下段）

27:30　地の十分の一は、地の産物であれ木の実であれ、すべて【主】のものである。それは【主】の聖なるものである。

※マラキ書3章10節～12節「神の物を盗んでいる」(旧約p.1634上段)

3:10　十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、私の家の食物とせよ。こうして私を試してみよ。――万軍の【主】は言われる――私があなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか。

3:11　私はあなたがたのために、食い荒らすものを叱って、あなたがたの大地の実りを滅ぼさないようにし、畑のぶどうの木が不作とならないようにする。――万軍の【主】は言われる――

3:12　すべての国々は、あなたがたを幸せ者と言うようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ。――万軍の【主】は言われる。

●ポイント2.「しなければならないこと」とは？

※マタイ伝22章36節～40節「律法の専門家の質問」（新約p.47上段）

22:36「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」

22:37　イエスは彼に言われた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

22:38　これが、重要な第一の戒めです。

22:39『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。

22:40　この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」

●ポイント3.「墓に触れること」とは？

※民数記19章16節「モーセとアロンへの言葉」　　（旧約p.275上段）

19:16　また、野外で、剣で刺し殺された者、死人、人の骨、墓に触れる者はみな、七日間汚れる。

◎先週のメッセージ【外側と内側】

《一人のパリサイ人が、主イエスに、「自分の家で食事をしていただきたい」とお願いしたとあります。多くのパリサイ人たちは、主イエスに対して敵意を持っていましたが、この者は少し違っていたようです。

　そこで、主イエスは、彼の家に入って、食卓に着かれたとあります。すると、そのパリサイ人は、主イエスが食事の前に、きよめの洗いをなさらないのを見て驚いた、と言うのです。当時のユダヤでは、入り口にきよめの為の大きな水がめがいくつも置かれており、その水をすくって洗うことが一般的でした。ガリラヤのカナで、「水を葡萄酒に変える奇跡」の時にも、そのような水がめが用いられました。

　それでは、なぜ主イエスは手を洗おうとはしなかったのでしょうか。じつは「きよめの洗い」という行為に問題があったからです。マルコは、『パリサイ人をはじめユダヤ人は皆、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わずに食事をすることはなく、市場から戻ったときは、からだをきよめてからでないと食べることをしなかった。』と、書いています。主イエスは、彼が驚く様子を見て、言われました。

「なるほど、あなたがたパリサイ人は、杯や皿の外側はきよめるが、その内側は強欲と邪悪で満ちています。愚かな者たち。外側を造られた方は、内側も造られたのではありませんか。」「杯や皿」とは、私たちの身体の比喩であり、「内側」とは私たちの「心」を表わしています。

「とにかく、内にあるものを施しに用いなさい。そうすれば、あなたがたにとって、すべてがきよいものとなります。」「内にあるもの」とは、心のことであり、施す心とは、他人を思いやる心のことです。

　さて、私たちを含めて、多くの人々は、外面を良くしようとします。しかしその内側は、悪意や強欲などで支配されてはいないでしょうか。神様は私たちの心を見られるのです。神の子どもにされた私たちには、時々、心の掃除(悔い改め)が、必要なのではないでしょうか。》

◎お知らせ

※次回の第一主日(第二アドベント)礼拝は、12月7日午前10時から。